

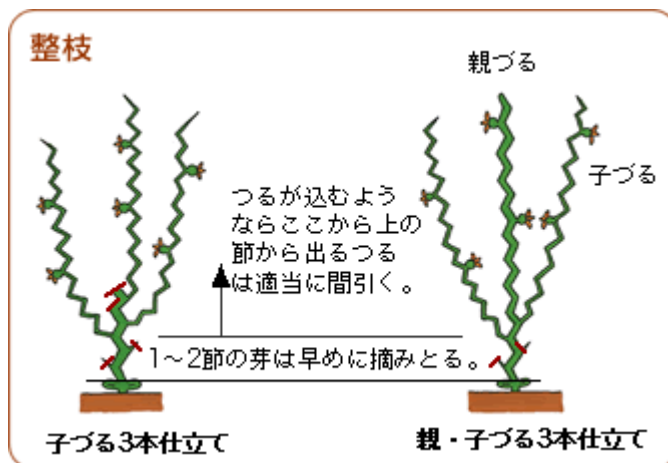
小玉スイカの支柱栽培

〈1〉畑の準備・植付け

地這い作りのように広い畝はいりません。粗(あら)起こしのとき堆肥と苦土石灰を施して深く耕し、pHの調整をします。その後、元肥は心肥として畝の中心部に施し、幅1.2m程度の畝を立てます。購入苗を利用する時は、接ぎ木苗でガッチリと育ったものを選んでください。ポットへは前日に十分水やりをしておき、植え付け時の根鉢の崩れを防ぎます。植え付け時期が早い場合、マルチングだけでなく、ホットキャップをかぶせて保温してやります。株間は主に主枝の間配り方によって決めます。根鉢の表面が見える程度の浅植えにしておきます。

〈2〉支柱立て・整枝・誘引

2m程度の間隔に柱を立て、キュウリネットを展張してつるを誘引します。本葉5~6枚で親づるを摘芯し、生育のよい子づるを3本伸ばしてネットに誘引していくか、親づると親づるの3~4節目から伸びる生育のよい子づる2本を伸ばして3本のつるをネットに誘引していきます。つるは垂直に伸ばすと、ネットの先端まですぐに到達するので、少し斜めにして、つる先をこまめにネットにからませるようにします。



〈3〉人口受粉

子づるには7~8節ころから雌花が5~6節おきにつきます。着果を確実にするため、雌花が咲いたら、午前10時ころまでに丁寧に人工受粉をしておきます。

〈4〉追肥・敷きわら

立ち作りをするので、畝の表面の敷きわらは不要のように考えられますが、植え付け後の株元には敷きわらをしておきます。(追肥はイラスト参照)

〈5〉孫づるかき・収穫

育ち具合にもよりますが、葉が茂りすぎるようならば、孫づるは適当に摘み取って、日当たりと風通しを図ります。果実が大きくなると、つるに負荷がかかるので、果実を網袋に入れてつり下げるか、果梗部にヒモをかけて支柱からつり下げないようにします。

〈6〉収穫

人工交配したとき、日付けを記入したラベルをつけておき、交配から1番果は40日ほど、2番果で30~35日経過したものを収穫します。その他、果実のついている節の巻きひげが枯れてきたころ、果実の花落ち部がくぼんで、押さえると弾力を感じるようになったころなどを目安に収穫します。

